教　科　名	国語	科目名	現代の国語	単位数	３　単位
対 象 学 年	１年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	言葉を学ぶ（書き手の意図をつかむ，文章の展開を把握する，対比を読み取る，コミュニケーションと言葉，日常の中の文章，言葉の働きをとらえる，書き手の考えを比較する，根拠を読み取る，社会の中の文章） 言葉を使う（話し言葉の技術，書き言葉の技術）				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする.	「話すこと・聞くこと」,「書くこと」,「読むこと」の各領域において，論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり，思いや考えを広げたり深めたりしながら，言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに，進んで読書に親しみ，言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（話し合いを主とした学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート，レポート・感想文などの作成した文章）
教科書、教材など	大修館書店『現代の国語』，準拠学習ノート，常用漢字ダブルクリア ，デジタル国語便覧，辞書アプリ		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	明日をひらく	・白紙 ・考える技術――考えさせない時代に抗して	3 2	・言葉やコミュニケーションの基礎を知り、学びに向かう姿勢をつくる。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5	中間考査	・伝える・伝え合う	2	・相手や目的に応じた語句や文体の使い方を身につける	
		要点をつかむ	テスト・テスト直し・解説	2		
	6	的確に伝える	・水の東西 ・「動」への変化 ・伝わるように話す	3 3	・叙述を的確にとらえる。 ・具体と抽象を理解し、文章の要点を的確にまとめる。 ・相手に正確に伝わるようにわかりやすく書く。	
	7		・わかりやすく書く ・意見を書く	2 2	・文章の種類をふまえて、叙述を基に内容を的確にとらえる。 ・構成や展開を意識して文章を書く。	
2	8	期末考査	テスト・テスト直し・解説	1	・根拠を明確にして、自分の意見を書く。	
	9	意見を示す		2		
		論理をとらえる	・文章の論理をとらえる ・動的平衡としての生物多様性	3 3	・主張と根拠、理由づけの関係をとらえる。 ・演繹、帰納に着目して、文章の論理をとらえる。	
	10		・自然と人間の関係をとおして考える ・工夫して話す	2	・相手の興味を引くように、構成や展開を工夫して話す。 ・声の強弱や話す速度、間の取り方などを意識して話したり聞いたりする。	
	11		・資料と文章の関係を読む 「安くておいしい国」の限界 ・インターネット時代の音楽産業	1 3 2	・さまざまな表現の工夫を知り、自らの表現に生かす。 ・読み手が共感できるように、表現を工夫して書く。	
		中間考査				
	12		テスト・テスト直し・解説	2		
3	1	魅力的に伝える	・目的に沿った質問をする ・状況に応じた通信文を書く ・文章を比較して読む 「美しさの発見」について（脳は美をどうとらえるか）	2 2 3	・質問の目的を明確にする。 ・目的に沿った質問をして知りたかったことへの理解を深める。 ・通信文の基本的なルールを知る。 ・相手や場面に応じた通信文を書く。 ・複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。	
	2					
	3		・空気を読む ・「個人」から「分人」へ	3		
		期末考査	テスト・テスト直し・解説	2		
			・説得力のある資料をつくる ・根拠を吟味して読む 贅沢を取り戻す ・言葉についての新しい認識	2 2 2 3	・提案を検討する際に必要な要素を押さえる。 ・効果的な表現や資料の提示のしかたを工夫する。 ・文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や信頼性を吟味する。	
		学年末考査	テスト・テスト直し・解説			
			・文章を読み取り主張を書く ・討論をする ・主体的に読む ・作業ロボットの悲劇 ・レポートを書く	2 2 2 1 4	・討論の流れと司会者・参加者それぞれの役割を理解する。 ・自分の考えが伝わるよう、論理の流れに注意して発言する。 ・話し手の論理の展開や表現のしかたをとらえ、評価する。 ・目的に即して、文章から必要な情報を読み取る。 ・読み取った情報を活用する。	
備考：			合計	70		

教　科　名	国語	科目名	現代の国語	単位数	２　単位
対 象 学 年	１年総合・調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	言葉を学ぶ（書き手の意図をつかむ，文章の展開を把握する，対比を読み取る，コミュニケーションと言葉，日常の中の文章，言葉の働きをとらえる，書き手の考えを比較する，根拠を読み取る，社会の中の文章） 言葉を使う（話し言葉の技術，書き言葉の技術）				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする.	「話すこと・聞くこと」,「書くこと」,「読むこと」の各領域において，論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり，思いや考えを広げたり深めたりしながら，言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに，進んで読書に親しみ，言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（話し合いを主とした学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート，レポート・感想文などの作成した文章）
教科書、教材など	数研出版『新編現代の国語』，準拠ワーク，常用漢字ダブルクリア ，デジタル国語便覧，辞書アプリ		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	書き手の意図をつかむ	目指す世界の地図を作る	3	筆者の意図や表現上の工夫について自分の考えを書く。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
		中間考査				
		【チェックポイント1】	テスト・テスト直し・解説	2		
	5	文章の展開を把握する	ものづくり	3	文章内容に関連した具体例を考え、発表する。	
		期末考査	わかりやすく話す	3	自分が大切にしているものについてスピーチをする。	
	6	【チェックポイント２】	時間とは何か	3	文章の構成を接続語に注意してまとめる。	
		対比を読み取る	地球を旅する水の話	2	文章内容を自分にひきつけて考え、検討内容を発表する。	
			テスト・テスト直し・解説	2		
	7	コミュニケーションと言葉	メモをとりながら聞く	2	発表を聞き、内容や構成に注意しながら聞き取った情報をメモにとる。	
	8	【チェックポイント３】	水の東西	3	文章内容に関連した具体例を探し、その内容を簡潔にまとめる。	
2	9	中間考査	里山物語	3	特定の言葉について文章の内容を踏まえて説明する。	
		日常の中の文章	世間話はなぜするか	2	文章内容を踏まえて、具体的な会話場面における話し手の意図について考える。	
			適切な書式で通知する	2	手紙・メールの書式の違いを踏まえて通知文を書く。	
	10					
		言葉の働きをとらえる	テスト・テスト直し・解説	2		
		期末考査	写真を文章で説明する	2	提示された写真を文章で説明する。	
	11	書き手の考えを比較する	広告コピーを書く	2	自分の高校を紹介するためのコピー文を書く。	
		【チェックポイント４】	表現の工夫を読み取る〈新聞〉	2	学校行事を伝える記事を書く。	
		根拠を読み取る	語感トレーニング	2	同じような意味の、語種が異なる語を複数挙げて、語感の違いについて話し合う。	
	12	【チェックポイント5】	テスト・テスト直し・解説	2		
	1	社会の中の文章	コインは円形か	2	自分の認識のあり方について振り返り、具体例を挙げながら話し合う。	
			科学と非科学	3	筆者の主張に対する自分の意見を根拠を明確にして述べる。	
3		【チェックポイント6】	必要な情報を整理して書く	1	目的を意識して利用規約を作る。	
	2	学年末考査				
		話し言葉の技術		2	文章に関するテーマで意見文を書く。	
	3		「差」という情報	2	筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめ、意見交換をする。	
			「わらしべ長者」の経済学	2	インタビュー動画を視聴し、その内容を文章にまとめる。	
		書き言葉の技術	目的に応じて情報を聞き取る	4	集めた情報と検討内容を資料にまとめ、発表する。	
			課題を発見し解決策を発表する〈SDGｓ解説文〉	2	客観的な根拠や妥当性のある理由づけを考えて書く。	
			根拠の妥当性を説明する	2	聞き手への伝わりやすさに注意してスピーチをする。	
			テスト・テスト直し・解説	1	反論を想定して発言したり、論理的に考察を深めたりしながら	
			スピーチディベート・討議	1	ディベートを行う。	
					調査したことをまとめ、プレゼンツールを使用して発表する。	
			プレゼンテーション	1	文章構造を工夫しながら文章を書く。	
			文章構造を理解する	2	文章を指定字数で要約する。	
			要約・比較する	2	複数の情報を比較しながら仮説を立て文章にまとめる。	
			意見文を書く	1	複数の情報を関連付けながら意見文を書く。	
備考：			合計	70		

教　科　名	国語	科目名	言語文化	単位数	３　単位
対 象 学 年	１年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	古文編（古文に親しむ，随筆を楽しむ，物語の広がり，旅への思い） 漢文編（漢文に親しむ，現代に生きることば，古人に学ぶ、漢文を楽しむ） 近現代編（ことばと出会う，表現を味わう，文化を見つめる，物語を受け継ぐ，ことばを生きる，近代文学に触れる）				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において，論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり，思いや考えを広げたり深めたりしながら，言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに，進んで読書に親しみ，言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（話し合いを主とした学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート，レポート・感想文などの作成した文章） ・自己評価
教科書、教材など	数研出版『言語文化』，準拠ワーク，体系古典文法，体系漢文，デジタルカラー国語便覧，辞書アプリ		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	[古文] 説話	言語文化と古文 宇治拾遺物語 児のそら寝・絵仏師良秀	1 6	・言語と文化の関係について読み取る。 ・古文の文体や仮名遣いに慣れる。 ・作者の伝えたいことをとらえる。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5	中間考査	テスト・テスト直し・解説	2	テスト・テスト直し・解説	
		[漢文] 入門	言語文化と漢文 入門一・入門二	1 4	・漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。 ・漢文の訓読のきまりについて理解し、その口調やリズムに親しむ。	
	6	故事	漁夫之利・矛盾・狐借虎威 朝三暮四	6	・音読して漢文訓読のリズムに慣れ、文章の内容を正確に読み取る。 ・故事成語の意味や日本への影響を理解する。	
		[近現代] 近代小説(一)	言語文化と近現代 羅生門 『今昔物語集』巻第二九第一八	1 6	・言語と近現代文化の関係について読み取る。 ・場面ごとの人物の心情の変化を読み取る。 ・元になった古典作品との比較をふまえて、内容の解釈を深める。	
		期末考査	テスト・テスト直し・解説	2	テスト・テスト直し・解説	
	7	[古文] 随筆(一)	徒然草　つれづれ・神無月	6	・作者の心情の変化や感動の内容を読み取る。	
2	8	歌物語	伊勢物語　芥川・東下り	6	・物語の内容を読み取り、登場人物の関係を理解する。 ・歌に込められた登場人物の思いをとらえる。	
	9	[漢文] 史伝	管鮑之交・先従隗始	4	・話の展開をとらえ、作者が話に込めた意図を読み取る。	
		[近現代]				
	10	現代小説(一)	サラバ！	4	・登場人物の心情の変化を読み取る。	
		中間考査	テスト・テスト直し・解説	2	テスト・テスト直し・解説	
		[古文] 物語	竹取物語	4	・	
	11	随筆(二)	枕草子	4	・自然の情景に対する作者の感覚をとらえる。 ・作者の人物像をとらえる。	
		[漢文] 漢詩	中国の詩・日本の詩	4	・漢詩の形式や詩の表現の特徴を理解する。 ・自然･友情･人生をうたった詩を味わい、表現の工夫をとらえる。	
		期末考査	テスト・テスト直し・解説	2	テスト・テスト直し・解説	
	12	[古文] 和歌	万葉集･古今･新古今和歌集	4	・短歌に親しみ、表現の特徴を理解する。	
		[近現代] 詩歌	I was bone/短歌・俳句	3	・作品に詠まれている情景や心情を読み味わう。	
	1	[古文]				
3		日記文学	土佐日記　門出・帰京	3	・旅に出るまでの習わしについて知る。 ・日記の形態や書き手の設定に着目し、その効果について考える。	
		軍記物語	平家物語　祇園精舎・木曽	4	・特徴的な文体のリズムを味わう ・登場人物の会話や行動を整理しどう描かれているか読み取る。	
	2	俳諧紀行	おくのほそ道	2	・俳諧紀行文の特徴をとらえ、その文学的意義を理解する。 ・古人にとっての旅と人生との関わりをとらえ心情に心を寄せる。	
		[漢文] 思想	論語・孟子	4	・孔子や孟子の名言に親しみ、その思想と現代との関わりについて考えを深める。	
		学年末考査	テスト・テスト直し・解説	2	テスト・テスト直し・解説	
		[近現代]				
	3	近代小説(二)	城の崎にて	4	・作品の背景をふまえて、内容を理解する。	
		近代小説(三)	山月記・人虎伝	4	・場面ごとの人物の心情の変化を読み取る。 ・元になった古典作品との比較をふまえて、内容の解釈を深める。	
備考：			合計	105	現代23・古文45・漢文30　書くこと7	

教　科　名	国語	科目名	言語文化	単位数	２　単位
対 象 学 年	１年総合・調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	現代文編（１ことばと出会う，２表現を味わう，３文化を見つめる，４物語を受け継ぐ，５ことばを生きる，近代文学に触れる） 古文編（１古典に親しむ，随筆を楽しむ，物語の広がり，旅への思い） 漢文編（１漢文に親しむ，現代に生きることば，古人に学ぶ、漢文を楽しむ）				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，ワークシート） ・定期考査	・記述の確認（ノート，ワークシート，レポート・感想文などの作成した文章） ・定期考査
教科書、教材など	大修館書店『新編言語文化』，準拠学習ノート，常用漢字ダブルクリア ，デジタル国語便覧，辞書アプリ		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	1ことばと出会う	言葉の森を育てよう	3	・言葉についての筆者の考えを読み取り、言葉が果たしている役割を理解する。・日常使っている言葉を見つめ直す。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
		1ことばと出会う	季節の言葉と出会う ＊日本人の季節感→古典との関わり	2	・日本で受け継がれてきた自然観や美意識について、筆者の主張をとらえる。 ・季語に興味をもつとともに、日本独特の自然の味わい方について、自分の考えを深める。	
	5	1　古文に親しむ	″古文への招待 いろは歌	3	・古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解する。 ・受け継がれてきた古文を音読し、響きやリズムを味わう。″	
		1　古文に親しむ	児のそら寝	3	・繰り返し音読し、古文の読みに慣れる。 ・児と僧たちの行動、心情の移り変わりを読み取る。″	
		中間考査	テスト・テスト直し・解説	2		
		表現を味わう	とんかつ	6	・登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。 ・語り手の役割や場面の展開に着目し、作品の構造を理解する。″	
	6	1　随筆を楽しむ	″徒然草　高名の木登り	3	・音読して古文の読みに慣れ、文章の内容を正確に読み取る。 ・作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。″	
		1　ことばと出会う	″漢字と仮名の使い分け	3	・日本語の表記の特色について、筆者の主張をとらえる。 ・表記に興味をもち、調べたり考えたりする。″	
		期末考査	テスト・テスト直し・解説	2	テスト・テスト直し・解説	
	7	1　古文に親しむ	十二の「子」文字	2	・誰の発言かに注意し、物語の内容を読み取る。	
		1　漢文に親しむ	訓読のきまり／格言／再読文字	3	・漢字の読みと日本の言語文化についての理解を深める。″ ・漢文の訓読のきまりについて理解する。	
2	9	2　現代に生きることば	守株	2	・漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。″ ・「株を守る」という言葉の意味について、考えを深める。 ・この話で語られている教訓の意義を理解する。″	
		3　文化を見つめる	足し算の文化	4	″・日本文化の特徴について、筆者の主張をとらえる。 ・身のまわりの例を探しながら、日本文化の特色について理解を深める。	
	10	2　物語を受け継ぐ 3	″羅生門	7	″・小説の構成をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取る。 ・元になった古典作品との比較をふまえて、内容の解釈を深める。″	
		中間考査	テスト・テスト直し・解説	2	テスト・テスト直し・解説	
	11	3　物語の広がり	″伊勢物語　芥川／筒井筒／あづま下り	4	″・登場人物の行動や場面の展開を正確に把握する。 ・和歌に表れた心情を読み取り、本文の中で和歌が果たしている役割を考える。″	
		2　現代に生きることば	蛇足	3	″・「蛇足」という言葉の意味について、考えを深める。 ・この話で語られている教訓の意義を理解する。″	
	12	4　ことばと生きる	祖母が笑うということ	3	″・叙述をもとに、場面の様子や人物の心情を想像しながら読む。 ・文章の展開のしかたや表現のしかたに着目し、文章表現を味わう。″	
		期末考査	テスト・テスト直し・解説		テスト・テスト直し・解説	
3	1	5　ことばと生きる	ことばは光	3	″・筆者の経験や、ものの見方、考え方を的確に読み取る。 ・読み取ったことをふまえて、自分の経験を振り返り、考えを深める。	
	2	4　旅への思い	土佐日記　門出／旅の終わり	3	″・文章の展開や和歌の内容に注意して、登場人物の心情を読み取る。 ・作品の主題と表現の特色を理解する。″	
	3	学年末考査	テスト・テスト直し・解説	2	テスト・テスト直し・解説	
		4　旅への思い	おくのほそ道　旅立ち	3	″・音読して文体の特徴をとらえ、文章の内容を読み取る。 ・文と句の関係に注意して、それぞれの句に詠まれた情景や心情を考える。″	
備考：			合計	70		

教　科　名	地理歴史	科目名	地理総合	単位数	２単位
対 象 学 年	第　１　学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養う。				
学習内容の概要	（１）現代世界の特色と地理的技能 現代世界の地域性や動向を地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献など地理的情報の収集、選択、処理など作業的、体験的学習を通じてとらえ、諸資料の地理的情報化や地図化などの地理的技能を身につける。 （２）地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題 異文化理解及び地理的課題の取組みに重点を置いて、それらの地域性を踏まえて追求し、現代世界の地理的認識を深め、地理的な見方、考え方を身につける。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	地理的内容、現代社会的内容の因果関係など、現代世界の諸課題に対する関心を持ち、主体的・意欲的に学習活動に取り組んでいる。	地理的事象（地形、気候など）を多面的・多角的に比較・考察した上で、その結果を的確に発表する。ワークノート、プリントの作業諸課題に関する諸資料を見学・収集し、吟味・考察してその成果を適切に年表・地図などに表現する。	世界の地理と現代の諸課題に関する相互の因果関係を公正に読み取る能力と、近現代史を座標軸となる知識を踏まえて大観的に捉えることのできる能力を身につけることができる。

評価方法				
	授業中の取り組む状態や、発問に対する答え方。ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	因果関係を追及しようとする姿勢や、授業中の発問に対する答え方や、答えを探すなど、答えを導き出そうとする。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。

教科書、教材など	「高等学校　新地理総合」（帝国書院）　「新詳高等地図」（帝国書院） ※特進のみ　「高等学校　新地理総合ノート」（帝国書院）　「新編　地理資料２０２３」（とうほう）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	１学期 中間テスト １学期 期末テスト ２学期 中間テスト ２学期 期末テスト ３学期 学年末考査	第１部　地図でとらえる現代世界 第１章　地図と地理情報システム １節　地球上の位置と時差 ２節　地図の役割と種類 第２章　結びつきを深める現代世界 １節　現代世界の国家と領域 ２節　グローバル化する世界 第２部　国際理解と国際協力 第１章　生活文化の多様性と国際理解 １節　世界の地形と人々の生活 ２節　世界の気候と人々の生活 ３節　世界の言語・宗教と人々の生活 ４節　歴史的背景と人々の生活 ５節　世界の産業と人々の生活 第２章　地球的課題と国際協力 １節　複雑に絡み合う地球的課題 ２節　地球環境問題 ３節　資源・エネルギー問題 ４節　人口問題 ５節　食料問題 ６節　都市･居住問題 第３部　持続可能な地域づくりと私たち 第１章　自然環境と防災 １節　日本の自然環境 ２節　地震・津波と防災 ３節　火山災害と防災 ４節　気象災害と防災 ５節　自然災害への備え 第２章　生活圏の調査と地域の展望 １節　生活圏の調査と地域の展望	12 14 18 12 12 2	○緯度、経度、自転、公転など、基本的なことを理解するとともに、世界各地の気候や地形と、地図の種類や用途を考察する。 ○世界の地形と領域を理解するとともに、人々の生活が、産業や文化、慣習など、どのように結びついているかを考察する。 ○世界の地域の人々の生活・文化を考察する。 ○地域ごとに考察し、気候や歴史、産業、文化などを理解し、日本との異質性を考察する。 ○地域ごとに気候を学ぶだけでなく、歴史や宗教などの社会環境が、どのように人々の生活に関わっているかを考察する。 ○世界各地の産業が、その地域の人々の生活にどのように影響しているのかを理解する。 ○人間活動の中で、地球的課題である環境問題にはどのようなものがあるのかを確認する。 人間活動と環境問題の因果関係を考察する。 環境問題の現状や課題、解決策を理解する。 ○人口問題や食料問題において、地域ごとに原因が異なったり、現状や対策、解決策などが異なったりすることを理解する。 ○日本国内や自分たちの生活する地域でおこった自然災害や、世界で見られた自然災害の状況、災害の頻度、地形などを考察する。 ○災害が発生した地域、気候などの自然環境との因果関係や、人間活動との関わりを考察する。 ○自然災害に対しての対策や、減災への取り組みを理解する。 ○地域の成り立ちや、生活圏にある施設や文化財などを調査することで、地域の理解を深める。	・関心 ・意欲 ・態度 ・授業への参加度やﾉｰﾄ作成、作業姿勢 ・資料活用 ・技能 ・地図の活用 ・白地図の作成 ・思考 ・判断 ・表現 ・レポートの作成・発表 ・知識・理解 ・定期考査
備考：			合計	70		

教　科　名	地歴公民	科目名	歴史総合	単位数	２単位
対 象 学 年	第　１　学年	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	（１）我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深める。 （２）基礎的事項の理解を踏まえ、国際社会に生きる民主的、平和的国家の一員として必要な自覚と資質を養う。				
学習内容の概要	基本的事項の定着をはかりながら、地理的条件や日本の歴史と関連付けて世界史の流れを理解させる。作業的な学習を取り入れ、生徒自身が主体となり自ら考える態度を養い、歴史的思考力の向上をはかる。				

科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に取り組もうとしているか。 近現代史の理解をもとに、人類の課題を世界史的視野に立って多角的に考察できているか。	諸資料を活用し、多面的、多角的に考察することができるか。 世界史と日本史の相互関係を判断し、歴史的事象を適切に表現する態度が身に付いているか。	前近代史に基づき、近現代史を理解するのに必要な基礎知識が身に付いているか。 日本史が世界史と深く関係していることに焦点を置きながら、「世界の中の日本」を捉えることができるか。

評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	定期テスト・小テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題および定期テストにより評価する。	定期テスト・小テストおよび課題により評価する。
教科書、教材など	「詳述歴史総合」（実教出版）「詳述歴史総合徹底整理演習ノート」・「詳述歴史総合マイノート」（実教出版）			
授　業　形　態	一斉授業			

年 間 授 業 計 画

学期	月	単　元	学習内容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	第1編　近代化と私たち	第１章　近代化への胎動	8	1　ヨーロッパの海外進出と市民社会 2　清の繁栄　3　東南アジア諸国間の貿易 4　江戸時代の日本と対外政策 5　江戸時代の社会と生活	観察 発表 課題 ノート 考査
	6	中間考査	第２章 欧米の市民革命と国民国家の形成	8	6　イギリス産業革命　7　アメリカ独立革命 8　フランス革命とナポレオン　9　ウィーン体制 10　19世紀のイギリスとフランス　11　イタリア・ドイツの統一 12　東方問題と19世紀のロシア　13　アメリカの発展と分裂 14　世界市場の形成	
2	7 8 9	期末考査	第３章 アジアの変容と日本の近代化	8	15　イスラーム世界の改革と再編 16　南アジア・東南アジアの改革と再編 17　アヘン戦争の衝撃　18　揺らぐ幕藩体制　19　開国 20　幕末政局と社会変動　21　新政府の成立と諸改革 22　富国強兵と文明開化 23　近代的な国際関係と国境・領土の画定 24　自由民権運小津の高まり　25　立憲国家の成立	
	10	中間考査	第４章　帝国主義の時代	8	26　帝国主義と世界分割　27　帝国主義期の欧米社会 28　条約改正　29　日清戦争　30　日露戦争から韓国併合へ 31　日本の産業革命と社会問題 32　アジア諸民族の独立運動・立憲革命	観察 発表 課題 ノート 考査
3	11 12	第２編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	第５章 第一次世界大戦と大衆社会	8	33　緊迫する国際秩序　34　第一次世界大戦 35　ロシア革命とシベリア出兵　36　大戦景気と米騒動 37　ヴェルサイユ体制とワシントン体制 38　西アジア・南アジアの民族運動 39　東アジア・東南アジアの民族運動　40　戦間期の欧米 41　ひろがる社会運動と普通選挙の実現 42　政党内閣の時代	
	1 2	期末考査	第６章 経済危機と第二次世界大戦	8	43　世界恐慌　44　ファシズムの時代 45　満州事変と軍部の台頭　46　日中戦争 47　第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 48　戦争と民衆　49　敗戦　50　国際連合と戦後世界 51　戦後と占領の始まり　52　民主化と日本国憲法 53　冷戦の開始　54　朝鮮戦争と日本	考査
	3	第3篇 グローバル化と私たち	第７章　冷戦と脱植民地化	8	55　冷戦対立の推移　56　植民地の独立と第三世界の出現 57　米ソ両陣営の動揺　58　日本の国際社会復帰と高度経済成長	
			第８章　現代の世界	8	59　石油危機と世界経済　60　緊張緩和から冷戦の終結 61　地域協力の進展　62　日本の経済大国化	
		学年末考査	第9章 グローバル化と現代世界	6	63　冷戦体制の終結　64　地域紛争と世界経済 65　グローバル化な認識へ	
備考：			合計	70		

教　科　名	公民	科目名	公共	単位数	２　単位
対 象 学 年	第　１　学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。				
学習内容の概要	（１）現代に生きる私たちの課題 現代社会に対する関心を高めるとともに、課題を設けて「公共的な空間」における倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から主体的に追求する力を身に付ける。 （２）現代の社会と人間としての在り方生き方 現代社会について社会的、経済的、政治的及び国際的な視点から理解させるとともに、青年の生き方、経済活動の在り方、民主社会の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割及び「公共的な空間」での日本人の生き方などについて考察する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代社会の諸問題を取り上げ、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から、諸問題の変化を追求することができる。	現代社会を様々な角度からとらえ、青年、経済人、主権者、国際社会における日本人など様々な立場から人間としての在り方、生き方を考えることができる。	広い視野に立ち、現代の社会基本的な問題について主体的に考え、公正に判断する良識ある公民としての資質を身に付けている。

評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および､ノートの状況､課題の提出を主として評価する。	テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題およびテストにより評価する。	テストおよび課題により評価する。

教科書、教材など	東京書籍「公共」（公共 701）， 「公共ワークノート」（東京書籍701）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	第1部　公共のとびら	1章　公共的な空間をつくる私たち	4	・青年期の発達課題を自己の課題として認識し、生涯における青年期の意義と自己形成の課題とその克服について考察する。	
				6		
	5		2章　公共的な空間における人間としての在り方生き方	7	・東西及び日本の思想を通じてよく生きること、他者との関係のなかで生きることの大切さを考察する。	
		中間考査				
	6		3章　公共的な空間における基本原理	6	・国家の役割、民主主義、立憲主義、人権保障、日本国憲法により「公共的空間」における公民として生きる意味を考察する。	観察 発表 課題 ノート 考査
		第2部　自立した主体として社会に参画する私たち				
	7		1章　民主政治と私たち	7	・民主政治と政治参加の意義を理解し、民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深める。	
2		期末考査				
	8		2章　法の働きと私たち	7	・法や規範の意義と役割／市民生活と私法／国民の司法参加について学び考察する。	
	9			7		
		中間考査				
			3章　経済社会で生きる私たち	7	・現代の経済と市場、市場経済における金融の働き、財政の役割と持続可能な社会保障制度について学び、考察する	
	10			7		観察 発表 課題 ノート 考査
3	11	期末考査	4章　私たちの職業生活	6	・働くことの意義と職業選択、労働者の権利と雇用、労働問題について学び、考察する。	
	12			6		
	1		5章　国際社会のなかで生きる私たち		・国際社会のルールとしくみ、国際社会と平和主義、国際平和への課題、グローバル化する国際経済を学び、考察する。	観察 発表 課題 ノート 考査
	2	学年末考査				
	3					
備考：			合計	７０		

＋教　科　名	数学	科目名	数学Ⅰ	単位数	3単位
対 象 学 年	第１学年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第１章　数と式　　第２章　集合と命題　　第３章　２次関数 第４章　図形と計量　　第５章　データの分析				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する

教科書、教材など	教科書　高等学校　数学Ⅰ（数研出版）　問題書 4プロセス数学Ⅰ＋A（数研出版） 練習ドリル数学Ⅰ標準編（数研出版）　参考書　チャート式基礎からの数学I+A（数研出版）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
1	4 5	第1章　数と式	第1節　式の計算 第2節　実数 第3節　1次不等式	20	数を実数まで拡張する意義を理解できるようにする。また，式を多面的にみたり処理したりするとともに，1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
		1学期中間考査				
	6	第2章　集合と命題	集合と命題	12	集合と命題に関する基本的な概念を理解し，それを事象の考察に活用できるようにする。	
	7 8	第3章　2次関数 1学期期末考査	第1節　2次関数とグラフ 第2節　2次関数の値の変化 第3節　2次方程式と2次不等式	30	2次関数とそのグラフについて理解し，2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	9 10	第4章　図形と計量	第1節　三角比 第2節　三角形への応用	30	三角比の意味やその基本的な性質について理解し，三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
		2学期中間考査				
	11 12	第5章　ﾃﾞｰﾀの分析	ﾃﾞｰﾀの分析	13	統計の基本的な考えを理解するとともに，それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	
		2学期期末考査				
備考：			合計	105		

教　科　名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	１単位
対 象 学 年	年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用す				
学習内容の概要	第1章　式と証明　　第2章　複素数と方程式				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。
評価方法	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する
教科書、教材など	教科書　高等学校数学Ⅱ（数研出版），問題書 4プロセス数学Ⅱ＋B（数研出版）， 参考書　チャート式 基礎からの数学Ⅱ＋B（数研出版）		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
3	1	第1章　式と証明	第1節　式と計算	10	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに，等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	2		第2節　等式・不等式の証明	10		
		第2章　複素数と方程式	第1節　複素数と2次方程式の解		方程式についての理解を深め，数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	
	3	学年末考査	第2節　高次方程式	10		
			問題演習	5		
備考：			合計	35		

＋教　科　名	数学	科目名	数学Ⅰ	単位数	3単位
対 象 学 年	第１学年総合調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第１章　数と式　　第２章　集合と命題　　第３章　２次関数 第４章　図形と計量　　第５章　データの分析				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する
教科書、教材など	教科書　最新　数学Ⅰ（数研出版） 新　高校の数学Ⅰポイントノート		
授 業 形 態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
1	4 5	第1章　数と式 1学期中間考査	第1節　式の計算 第2節　実数 第3節　1次不等式	20	数を実数まで拡張する意義を理解できるようにする。また，式を多面的にみたり処理したりするとともに，1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	6	第2章　集合と命題	集合と命題	12	集合と命題に関する基本的な概念を理解し，それを事象の考察に活用できるようにする。	
	7 8	第3章　2次関数 1学期期末考査	第2節　2次関数とグラフ 第2節　2次関数の値の変化 第3節　2次方程式と2次不等式	30	2次関数とそのグラフについて理解し，2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	9 10	第4章　図形と計量 2学期中間考査	第1節　三角比 第2節　三角形への応用	30	三角比の意味やその基本的な性質について理解し，三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	11 12	第5章　ﾃﾞｰﾀの分析 2学期期末考査	ﾃﾞｰﾀの分析	13	統計の基本的な考えを理解するとともに，それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	
備考：			合計	105		

教　科　名	数学	科目名	数学A	単位数	２単位
対 象 学 年	１年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を養い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を				
学習内容の概要	第１章　場合の数と確率　　第２章　図形の形質　　第３章　整数の性質				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。
評価方法	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する

教科書、教材など	教科書　高等学校 数学Ａ(数研出版)　問題書 4プロセス数学Ⅰ+A（数研出版） 練習ドリル数学A標準編（数研出版）　参考書　チャート式基礎からの数学I+A（数研出版）
業　形　態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	第1章　場合の数と確率	第1節　順列・組合せ	25	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	考査 授業 取組 課題 ※以下同じ
	5	1学期中間考査	第2節　確率			
	6	1学期期末考査	第1節　平面図形	25	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	7	第2章　図形の性質	第2節　空間図形			
2	9	2学期中間考査	整数の性質	20	整数の性質についての理解を深め，それを事象の考察に活用できるようにする。	
	10	2学期期末考査 第3章　整数の性質				
	11		問題演習			
	12	学年末考査				
3	1					
	2					
	3					
備考：			合計	70		

教　科　名	数学	科目名	数学A	単位数	２単位
対 象 学 年	１年総合調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を養い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を				
学習内容の概要	第１章　場合の数と確率　　第２章　図形の形質　　第３章　整数の性質				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。
評価方法	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する

教科書、教材など	教科書　最新 数学Ａ(数研出版) 新高校の数学Aポイントノート（数研出版）
業　形　態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価
1	4	第1章　場合の数と確率	第1節　順列・組合せ	25	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5	1学期中間考査	第2節　確率			
	6	1学期期末考査	第1節　平面図形	25	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	7	第2章　図形の性質	第2節　空間図形			
2	9	2学期中間考査	整数の性質	20	整数の性質についての理解を深め，それを事象の考察に活用できるようにする。	
	10	2学期期末考査 第3章　整数の性質				
	11		問題演習			
	12	学年末考査				
3	1					
	2					
	3					
備考：			合計	70		

教　科　名	理科	科目名	物理基礎	単位数	２単位
対 象 学 年	第１年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	物基701

科目の目標	・日常生活や社会との関連を図りながら,物体の運動と様々なｴﾈﾙｷﾞ--について理解するとともに,科学的に探究するために必要な観察,実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察,実験などを行い,科学的に探究する力を養う。 ・物体の運動と様々なｴﾈﾙｷﾞ--に主体的に関わり,科学的に探究しようとする態度を養う。
学習内容の概要	・物体の運動とｴﾈﾙｷﾞ-- ・さまざまな物理現象とｴﾈﾙｷﾞ--

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	観察、実験などを通して、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	テスト 課題	観察・実験への取り組み 実験レポート	授業への取り組み 板書、発表　　意思表示

教科書,教材など	「 物理基礎 」 東京書籍 （物基701） NEW GLOBAL 物理基礎
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動･実験･実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5 6	1編　物体の運動とｴﾈﾙｷﾞ-- 1章　運動の表し方 中間考査 2章 さまざまな力とそのはたらき 期末考査	1節 運動の表し方 2節 等速直線運動 3節 合成速度と相対速度 4節 直線運動の加速度 5節 落体の運動 1節 力とつり合い 2節 運動の法則 3節 さまざまな運動とはたらく力	5 6	A 運動の表し方　B 変位と速度 A 等速直線運 A 速度の合成　B 相対速度 A 斜面上を運動する物体 A 自由落下　B 鉛直投射　C 水平投射 A 力のはたらきと表し方　B 2力のつり合い　C さまざまな力 D 力の合成と分解　E 3力のつり合い A 慣性の法則　B 運動の法則 C 作用・反作用の法則 D ニュートンの運動の3法則 A 落体の運動とはたらく力 B 滑らかな面上を運動する物体とはたらく力 C 粗い面上を運動する物体とはたらく力 D 空気中や水中を運動する物体	活動 実験レポート 発表 宿題 考査の成績 を総合して評価
2	7 8 9 10	3章 力学的ｴﾈﾙｷﾞ-- 2編　さまざまな物理現象とｴﾈﾙｷﾞ-- 1章　熱 中間考査 1章　波 3章 電気と磁気 期末考査	1節 ｴﾈﾙｷﾞ--と仕事 2節 運動ｴﾈﾙｷﾞ--と位置ｴﾈﾙｷﾞ-- 3節 力学的ｴﾈﾙｷﾞ--の保存 4節 力学的ｴﾈﾙｷﾞ--が保存されない場合 1節温度と熱 2節 熱の移動と保存 3節 熱と仕事 4節 熱効率と不可逆変化 1節 波を表す 2節 波の重ね合わせ 3節 音の性質 4節 弦の固有振動 5節 気柱の固有振動 1節 電流と電圧 2節 電気抵抗 3節 抵抗の接続 4節 電気とｴﾈﾙｷﾞ-- 5節 直流と交流 6節 電磁波	8 7 5 8	A 仕事　B 仕事率 A 運動ｴﾈﾙｷﾞ--　B 位置ｴﾈﾙｷﾞ-- A 運動ｴﾈﾙｷﾞ--と位置ｴﾈﾙｷﾞ--が同時に変化する運動 B 重力のみが仕事をする運動　C 弾性力のみが仕事をする運動　D 保存力 A 保存力以外の力が仕事をする運動 A　温度　B　熱膨張　C　熱平衡　D　熱　E　物質の三態　F　潜熱 A　熱量の保存　B　熱容量と比熱容量 A　内部ｴﾈﾙｷﾞ--　B　熱力学第1法則 A　熱機関　B 可逆変化と不可逆変化 A 波とは　B 波をグラフで表す A 波の重ね合わせ　B 定在波（定常波）　C 自由端や固定端での反射 A 音とは　B 音の三要素　C うなり A 物体固有の振動　B 弦の固有振動 A 気柱の固有振動 A 静電気　B 電流　C 電圧 A 電気抵抗　B 物質による電気抵抗の違い A 抵抗の接続 A 電気とｴﾈﾙｷﾞ-- A 直流と交流　B 交流の発生　C 変圧器 D 電力の輸送　E 日常生活で利用する電気 A 電磁波の性質　B 電磁波の利用	
3	11 12 1 2 3	2編 さまざまな物理現象とｴﾈﾙｷﾞ-- 4章　ｴﾈﾙｷﾞ-とその利用 学年末考査 物理学が拓く世界	1節　ｴﾈﾙｷﾞ-の変換と保存 2節　原子核のｴﾈﾙｷﾞ-① 3節　原子核のｴﾈﾙｷﾞ-② 4節　ｴﾈﾙｷﾞ-の利用と課題 これからの私たちの世界と物理学	8 8 5 5 5	Aｴﾈﾙｷﾞ-とは何か Bさまざまなｴﾈﾙｷﾞ-- Cｴﾈﾙｷﾞ-の変換と保存 A　原子の構造　B　放射線と核（原子力）ｴﾈﾙｷﾞ-の発見 C　放射能の強さと半減期　D　放射線の種類と利用 E　放射線の人体への影響 A　核分裂 核分裂と核融合 B　核融合 A　生命の営みとｴﾈﾙｷﾞ-　B　人間生活とｴﾈﾙｷﾞ- C　使いやすいｴﾈﾙｷﾞ-の形　D　持続可能な社会の実現に向けて 物理とかかわる人々	
備考：			合計	70		

教　科　名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2単位
対 象 学 年	第１学年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	生基　710

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付け，科学的に探究する力を養う。		
学習内容の概要	生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生物や生物現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
評価方法	日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察，実験などを行い，探究の過程を通して，情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈，報告書の作成や発表などの探究の方法を習得し，科学的に探究する力を身に付けている。	物質とその変化に主体的に関わり，主体的に探究しようとする態度を身に付けている。
教科書、教材など	生基　710　「 生物基礎 」 「セミナー生物基礎　2022新課程版」第一学習社		
授 業 形 態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5 6	第1章　生物の特徴 第1節　生物の共通性 ①生物の多様性と共通性 ②生物の共通性の由来中間考査 第2節　生物とエネルギー ①生物とエネルギー ②代謝とATP③代謝と酵素 期末考査	地球上のさまざまな環境には，多種多様な生物が生息しており，生物は多様であること、生物の共通の祖先，多様化のこと、生物が共通にもつ特徴、細胞には原核細胞と真核細胞があることについて理解する。 ＤＮＡを抽出する	7 8	・多様な生物の共通性を見いだす ・DNAの抽出・生物にみられる３つの共通性 ・系統と系統樹 ・原核生物と真核生物にみられる細胞構造 ・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する ・ATPの構造とその役割 ・光合成と呼吸の概要・代謝と酵素	活動・実験レポート・板書発表・宿題考査の成績を総合して評価
2	 7 8 9 10	第2章　遺伝子とその働き 第1節　遺伝子の本体と構造 ①遺伝情報とDNA ②DNAの複製と分配 第2節　遺伝情報とタンパク質 ①遺伝情報とタンパク質 ②転写と翻訳 ③遺伝子とゲノム 中間考査 第3章　ヒトのからだの調節 第1節　情報の伝達と体内環境 ①恒常性と神経系 ②恒常性と内分泌系 ③体内環境を調節するしくみ ④血液凝固期末考査 第2節　免疫 ①生体防御②自然免疫③獲得免疫④自然免疫と獲得免疫の特徴 ⑤免疫と生活	ヌクレオチドの構造および，ＤＮＡの二重らせん構造について間期の間にＤＮＡが複製され，細胞分裂を通じて均等に分配されることで，細胞分裂の前後で遺伝情報の同一性が保たれることを理解 腎臓の働きによって，体液中の塩類などの濃度が保たれている。 無脊椎動物，魚類の体液の濃度調節について。 生体防御・免疫のしくみ。 白血球の食作用・抗体の特徴、リンパ球による抗原認識，免疫寛容 獲得免疫は自然免疫によって誘導排除の流れを理解する。 身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。 予防接種や血清療法のしくみ	6 6 7 6 6 6	・遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴 ・DNAの構造及び・DNAの研究史 ・DNAの塩基の相補性と半保存的複製 ・細胞周期の各時期にかかる時間の推定 ・タンパク質の構造の概要 ・DNAの塩基配列とアミノ酸配列との関係 ・転写と翻訳・遺伝暗号表の読み取り ・ゲノム・細胞の分化と遺伝子の発現，だ腺染色体の観察 ・体内での情報伝達とからだの調節 ・ヒトの神経系と脳，脳死・自律神経系 ・内分泌系による調節，フィードバック調節 ・体内環境の維持とホルモンの働き ・血糖濃度調節と糖尿病 ・体温調節・血液凝固・生体の物理的・化学的防御・免疫での異物を排除する防御機構 ・食作用，食作用の観察 ・免疫反応(自然免疫・獲得免疫)・二次応答 ・免疫疾患・免疫を利用した医療	
3	11 12 1 2 3	第4章　植生と遷移 第1節　植生と遷移 ①植生と環境の関わり ②遷移のしくみ 第2節　バイオーム ①遷移とバイオーム 第5章　生態系とその保全 第1節　生態系と生物の多様性 ①生態系の成り立ち ②生態系における生物どうしの関わり 第2節　生態系のバランスと保全 ②　生態系の変動と安定性 ②人間活動による生態系への影響とその対策　学年末考査	気温と降水量でバイオームが成立している バイオームの種類と分布と垂直分布，各バイオームの特徴的な植物種 身近な地域の気温と降水量からバイオームを推定し，野外で調査した植生と一致するかどうか確認する 生物の個体数や量は，常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解する。 人間は，生態系からさまざまな恩恵を受けており，それを受け続けるためには生態系を保全する必要があることを理解する。	6 7 5	植生は，相観によって森林・草原・荒原に大別されることを理解する。 ・森林には階層構造がみられ，階層によって光環境が異なることを理解する。 ・遷移のモデル・バイオームの概念を理解し，その地域に生育する植物を基盤としたバイオームが成立することを理解する。 ・地球上にはいろいろなバイオームが成立していることを理解する。 ・植生とその特徴，植生と環境との関係 ・陰生植物と陽生植物，陽葉・陰葉 ・遷移の要因を見いだす ・一次遷移のモデル的過程と二次遷移 ・植生の遷移とバイオーム ・生態系の概念，作用と環境形成作用 ・生態系のバランスと人為的撹乱	
	計			70		

教　科　名	理科	科目名	科学と人間生活	単位数	２単位
対 象 学 年	第１学年総合調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	科人703
科目の目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について，身近な物事・現象に関する観察，実験などを通して理解させ，科学的な見方や考え方を養うとともに，科学に対する興味・関心を高める。				
学習内容の概要	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について，身近な事物・現象に関する観察，実験などを通して理解させ，科学的な見方や考え方を養うとともに，科学に対する興味・関心を高める。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	科学技術の発展と，現代社会での科学技術の役割について理解することができる。	昔と比較して豊かな生活を送ることができるようになったことに対する，科学技術の役割について考えることができる。	現代社会において，科学技術の発展が生活を便利で豊かにしてきた様子と，その役割を調べようとする。
評価方法	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・授業への取り組み 板書、発表　意思表示

教科書、教材など	啓林館「科学と人間生活」（科人703）啓林館「サンダイヤル 科学と人間生活の学習ノート」
授 業 形 態	一斉授業　（第1部から第4部は，それぞれ第1章か第2章か，どちらかを選択して学習します。）

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5 6 7	**序章　科学技術の発展** 科学技術の発展　中間考査 **第１部　生命の科学** 第１章　ヒトの生命現象 Ａ　タンパク質と遺伝子 Ｂ　ヒトの視覚と光 Ｃ　血糖濃度の調節 Ｄ　免疫 第２章　微生物とその利用 Ａ　生態系における微生物 Ｂ　微生物と人間の食生活 Ｃ　微生物と医学への利用 期末考査	科学技術の進歩・発展を，通信・医療・交通技術を例にして，人間生活に果たしてきた役割を学ぶ。 タンパク質と遺伝子，ヒトの視覚と光，血糖濃度の調節，免疫について学び，ヒトの生命現象について理解する。	3 1 14 1	ヒトの生命現象にタンパク質が関与している，タンパク質が遺伝子の情報をもとにつくられる過程について理解する。 眼の構造や視覚，概日リズムを理解する。 ホルモンによる調節について理解する。抗体による免疫のしくみ，アレルギーについて理解する。 生態系と微生物の関係を理解する。 微生物の存在と，その発見の歴史，発酵と温度の関係を理解する。 病気と微生物の関係，医薬品などの製造と微生物の関係を理解する。	提出課題・小テスト・感想文定期考査の成績を総合して評価
2	8 9 10 11	**第２部　物質の科学** 第１章　材料とその利用 Ａ　プラスチック Ｂ　金属 Ｃ　セラミックス Ｄ　資源の再利用 第２章　衣料と食品 Ａ　衣料の科学 Ｂ　食品の科学　中間考査 **第３部　光や熱の科学** 第１章 光の性質とその利用 Ａ　光の進み方 Ｂ　光の波としての性質 Ｃ　電磁波とその利用 第２章 熱の性質とその利用 Ａ　熱とは何か Ｂ　エネルギーの利用 期末考査	プラスチックの種類と性質について理解することができる。 プラスチックの種類を決定する方法がわかる。 金属の種類と用途，性質，製造法について理解する。 セラミックスの種類と特徴について理解する。 繊維の種類と分類，それぞれの性質や，染料と洗剤のしくみについて理解する。 光の進み方，反射，屈折について理解させる。 電磁波の種類とその利用について理解させる。エネルギーが変換され，有効利用されることを理解	7 7 1 7 1	食品，衣料，染料，洗剤などについて学び，その性質や利用の仕方について化学の観点から理解する。 プラスチック，金属，セラミックス，それぞれの材料の特徴を生かして，利用されていることを学び，物質の種類，性質および用途や，資源の再利用について理解する。 光の性質とその利用，電磁波について学び，どのように利用されているかを学習する。 熱の性質とその利用，エネルギーについて学び，エネルギーの移り変わりなどについて理解する。	
3	12 1 2	**第４部　宇宙や地球の科学** 第１章　太陽と地球 Ａ　身近な天体　～太陽と月～ Ｂ　潮の満ち引き Ｃ　太陽放射と地球 Ｄ　大気の運動 第２章 自然景観と自然災害(14) Ａ　河川のはたらきによる景観と災害 Ｂ　地震による景観と災害 Ｃ　火山による景観と災害 終章 これからの科学と人間生活 学年末考査	太陽と月について理解させる。 潮の満ち引きとその原理について理解させる。 太陽からのエネルギーと地球の関係について理解させる。大気の運動と，気象による恩恵と災害について理解させる。 岩石の風化，河川のつくり出す景観や災害を理解させる。地殻変動がつくり出す景観や地震	7 1	身近な天体の姿や運行について学び，天体やその運行と人間生活との関係について理解する。 地球の活動と，人間と自然のかかわりを学び，身近な自然景観の成り立ちと自然災害について，地球内部のエネルギーによる変動と関連付けて理解する。 自然や科学技術に関連した課題を設定し考察させる。	
備考	合計			70		評価テスト

教　科　名	保健体育	科目名	体育（男子）	単位数	２単位
対 象 学 年	第１学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技術を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、事故の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	１学期…体つくり運動、バドミントンを行なう。 ２学期…バスケットボール、ソフトボール、サッカーを行なう。 ３学期…バレーボールを行なう。 各学期で体育理論を行なう。				

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	自己の能力と各種の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的なおこない方を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付ける。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。
教科書、教材など				
授 業 形 態	特進・調理科（合同）　１組・２組（単独）			

年　間　授　業　計　画

月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
４	体育理論	体育理論	６	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を知る。	
５	体力測定	基礎体力の測定	６	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。	
	体つくり運動	姿勢・方向転換・集合の方法・整列・列の増減・行進	３	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、スムーズに、かつ安全に行動できるようになる。	
６		体操・補強運動 体ほぐし運動 体育理論	２ ２	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたりして全身をリラックスして伸ばす。	
７	球技 期末考査	バドミントン	１０	・ラケットの握り方、サービス、ストローク、クリア、ドライブの修得をする。 ・５つの基礎を使い分けながらラリーができる。	
８		バスケットボール	１０	・ドリブル、パス、シュートを修得する。 ・３つの基礎を使い分けながらゲーム展開ができる。	
９ １０		ソフトボール	９	・ボールの握り方、キャッチボール、ゴロ・フライ補球、送球の修得をする。（守備） ・バットの握り方、バッティングの修得をする。（打撃） ・ゲームのなかで（守備）（打撃）の基礎を使い分ける。	
１１ １２	球技 期末考査	サッカー	９	・パス、ドリブル、キックを修得する。 ・3つの基礎を使い、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって攻防を展開する。	
１ ２ ３	学年末考査	バレーボール	１０	・パス（オーバーハンド・アンダーハン）、サーブ（アンダー・オーバー）、スパイク（助走と踏込み）などの基礎を修得する。 ・ゲーム（ラリーを楽しむ）のなかで３つの基礎を使い分ける。	
備考：		合計	７０		

教　科　名	保健体育	科目名	体育（女子）	単位数	２単位
対 象 学 年	第１学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技術を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、事故の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	１学期…体つくり運動、バドミントンを行なう。 ２学期…バスケットボール、ソフトボール、サッカーを行なう。 ３学期…バレーボールを行なう。 各学期で体育理論を行なう。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	自己の能力と各種の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的なおこない方を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付ける。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。
教科書、教材など				
授 業 形 態	特進・調理科（合同）　１組・２組（単独）			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	体育理論	体育理論	6	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を知る。	
		体力測定	基礎体力の測定	6	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。	
	5	体つくり運動	姿勢・方向転換・集合の方法・整列・列の増減・行進	3	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、スムーズに、かつ安全に行動できるようになる。	
	6		体操・補強運動 体ほぐし運動 体育理論	2 2	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたりして全身をリラックスして伸ばす。	
	7	球技	バドミントン	１０	・ラケットの握り方、サービス、ストローク、クリア、ドライブの修得をする。 ・５つの基礎を使い分けながらラリーができる。	
		期末考査				
2	8		バスケットボール	１０	・ドリブル、パス、シュートを修得する。 ・３つの基礎を使い分けながらゲーム展開ができる。	
	9		ソフトボール	9	・ボールの握り方、キャッチボール、ゴロ・フライ補球、送球の修得をする。（守備） ・バットの握り方、バッティングの修得をする。（打撃） ・ゲームのなかで（守備）（打撃）の基礎を使い分ける。	
	１０					
	１１		サッカー	9	・パス、ドリブル、キックを修得する。 ・3つの基礎を使い、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって攻防を展開する。	
	１２	球技 期末考査				
3	1		バレーボール	１０	・パス（オーバーハンド・アンダーハン）、サーブ（アンダー・オーバー）、スパイク（助走と踏込み）などの基礎を修得する。 ・ゲーム（ラリーを楽しむ）のなかで３つの基礎を使い分ける。	
	2	学年末考査				
	3					
備考：			合計	７０		

教　科　名	保健体育	科目名	保健	単位数	1単位
対 象 学 年	第１学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質、能力を育成する。				
学習内容の概要	現代社会と健康 １学期…健康の考え方と成り立ち・がんの原因と予防・運動と健康・食事と健康・ ２学期…喫煙と健康・薬物乱用と健康・精神疾患の特徴・現代の感染症・健康に関する環境づくり ３学期…事故の現状と発生要因・交通における安全・日常的な応急手当・心肺蘇生法				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	健康の保持増進に必要な事柄について関心をもち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして意欲的に学習しようとしている。	健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や体験、資料や仲間の意見や考えなどを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考えて判断できる。		健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択し、実践することや環境を改善していく努力が必要であることを理解する。健康や安全について、課題解決に役立つ知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。		授業中の取り組み、試験にて判断する。

教科書、教材など	・現代高等保健体育・現代高等保健体育ワーク
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	現代社会と健康	・健康の考え方と成り立ち	2	・さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。	授業中の態度、ノート、ワーク提出、期末試験等の点数で評価をする。
				1	・わが国の健康水準の変化とその背景について説明ができる。	
	5		・私たちの健康のすがた			
			・生活習慣病の予防と回復	2	・生活習慣病の種類と要因や一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。	
	6			2	・がんの種類や原因について説明できる。がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。	
			・がんの原因と予防	1	・目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。	
			・運津と健康	1	・食事と健康の関係について説明できる。健康的な食事のとり方について説明できる。	
	7		・食事と健康	2	・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。	
			・休養・睡眠と健康	1	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。	
2	8		・喫煙と健康	2	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。	
	9		・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康	1	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。	
	１０			2	・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。	
			・精神疾患の特徴	2	・精神疾患の治療について例をあげて説明できる。	
			・精神疾患からの回復	2	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。	
	１１		・現代の感染症	2	・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。	
	１２		・性感染症・エイズとその予防 ・健康に関する意思決定・行動選択	3	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。健康に関する適切な意思決定・行動選択の際に工夫について例をあげて説明できる。	
3	1	安全な社会生活	・事故の現状と発生要因	2	・事故の実態と被害の実態について説明できる。事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて説明できる。	
	2			2	・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。	
			・交通における安全	2	・応急手当の意義について説明できる。傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。	
	3		・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当	1	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。	
			・心肺蘇生法	2	・心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。実際に、心肺蘇生法をおこなうことができる。	
備考：			合計	35		

教　科　名	芸術	科目名	音楽Ⅰ	単位数	２単位
対 象 学 年	第１学年	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術文や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。				
学習内容の概要	Ａ. 表現　　１歌唱　　２器楽　　３創作 Ｂ. 鑑賞　　１鑑賞				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	曲想と音楽の構造や文化的、歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
評価方法	観察・聴取 学習プリント	観察・聴取 実技試験	観察・聴取 実技試験 学習プリント

教科書、教材など	ＭＯＵＳＡ１（教育芸術社）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5 6 7	正しい発声法を身につけよう（Ａ. 表現・歌唱）	・発声練習 ・リトミック ・校歌	4	・姿勢や呼吸法に気を付いて、楽曲の特徴を感じ取り、イメージを持って歌う	
		イタリア歌曲を歌おう（Ａ. 表現・歌唱）	・アヴェマリア ・カーロ　ミオ　ベン	8	イタリア語の語感を生かして、発音やフレーズの歌い方などを工夫しながら、楽曲にふさわしい表現を追求して独唱する演奏者による表現の特徴とその違いを理解する。	観察 実技試験
		オーケストラを知ろう（Ｂ. 鑑賞）		4	・オーケストラについての知識を深める。	学習プリント
		ボディーパーカッションに挑戦しよう（Ａ. 表現・器楽）	・チェリー（副教材）	4	・音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫してアンサンブルの喜びを味わう。	学習プリント
		表現を工夫してギターを演奏しよう（Ａ. 表現・歌唱）	・サザエさん	8	・ギターの音色や基本的な奏法の特徴を生かし、表現を工夫しながら演奏する。歌い弾きができるようにする。	観察・聴取、実技試験
		鑑賞しよう	モーツァルトについて	4	・作曲家の生涯をたどり、作品の特徴を聴きとる。	学習プリント
	8 9 10 11 12	表現を工夫して合唱やアンサンブルをしよう（Ａ. 表現・歌唱）		8	・アンサンブルにおける自分の役割にふさわしい表現方法を探求する。	観察・聴取 学習プリント
		世界の諸民族の音楽に親しもう（Ｂ. 鑑賞）	・鑑賞教材「世界の諸民族の音楽」	4	・世界の諸民族の音楽における声や楽器の音色や表現の特徴を捉え、多様な表現による音楽美を感じ取って鑑賞したり表現したりする。	観察・聴取、実技試験
	1 2 3	三味線に親しもう	・さくら ・	6	・三味線の音色や基本的な奏法の特徴を生かし、表現を工夫しながら演奏する	学習プリント
		鑑賞しよう	・ベートーベンについて	4	・作曲家の生涯をたどりながら、作品の特徴を聴きとる。	学習プリント
		創作に挑戦しよう（Ａ. 表現・創作）	・五音音階の種類と楽曲の特徴 ・旋律創作の手順と方法	8	・音階を選んで旋律をつくり、それにもう一つの旋律をつくって重ねる。	観察・聴取
		混声合唱の響きを味わおう（Ａ. 表現・歌唱）	・ゆめみたものは ・ぼくはぼく	8	・各パートの役割や音の重なり方などを理解して、楽曲にふさわしい表現や響きを追求する。	
備考：			合計	70		

教　科　名	芸術	科目名	美術Ⅰ	単位数	２単位
対 象 学 年	第１学年	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
学習内容の概要	（１）絵画・彫刻　（２）デザイン　（３）映像メディア表現　（４）鑑賞				

	知識・技能（技術）【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に取り組む態度【態】
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
評価方法	観察・聴取 学習プリント	観察・聴取 実技試験	観察・聴取 実技試験 学習プリント

教科書、教材など	高校生の美術　１（日本文教出版）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
１	４ ５	デザイン	・イラストレーション （自己紹介カード）	６	・レタリングの基礎、イラストレーションを通しての自己表現を工夫する。	
	６ ７	絵画、鑑賞	・身近な物を描く ・鑑賞	４		観察 実技試験
	８	デザイン	・色彩理論 （色の分類やしくみ） ・色彩構成 （色と形の響き合い）	１４	・色や形の基礎を学び構成力や色感を身につける ・色の分類、配色、美的秩序について学ぶ	学習プリント 学習プリント
	９ 10	立体構成	・紙による立体構造（地域のよさをパッケージの形に）	１４	・目的と機能、役割を考えてデザインを工夫する。 ・素材の特性を活かした機能的で創造な表現を工夫する。	観察・聴取、実技試験 学習プリント
	11 12	映像メディア表現	・プレゼンシート制作	８	・視覚伝達効果のある表現、映像メディア機材を用いた表現方法を理解する。	観察・聴取 学習プリント
	１ ２	絵画	・版画制作（ドライポイントで表現）	１４	・版画表現の多様性を、版種を学ぶ。 ・版画表現の独特な技法や面白さを味わう。	観察・聴取、実技試験 学習プリント
	３	多様な表現（平面）	・様々な表現方法 （自分の心の空、心の風景）	１０	・素材や材料、用具の特性を活かした表現方法をくふうして表現する。	学習プリント 観察・聴取
備考：			合計	70		

教　科　名	芸術	科目名	書道Ⅰ	単位数	２単位
対 象 学 年	第１学年	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
学習内容の概要	Ａ. 表現　　１漢字仮名混じり書　　２漢字の書　　３仮名の書　　４創作　　５篆刻 Ｂ. 鑑賞　　１書の美しさと表現効果　　２中国および日本の文化				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	・主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
評価方法	・表現の意図、構想、表現の工夫の取り組みの記録 （ワークシート等）	・表現を工夫して表した成果 （作品）	・作品制作への取り組み状況 （活動の様子） ・学習活動への参加状況 （出席状況・学習態度・意見発表等）
教科書、教材など	東京書籍「書道Ⅰ」		
授 業 形 態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	書写で学んできたこと		4	・中学までの学習を振り返り、書写と書道の共通性と相違を理解する。	作品
	6 7	漢字の書の学習	楷書の臨書と鑑賞	12 8	・漢字の書の変遷について学ぶ。 ・漢字の古典の鑑賞により、多様な表現を理解し、鑑賞力を深める。	
			行書の臨書と鑑賞	8	・各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞する。	
			草書の臨書と鑑賞	8	・草書に親しみ、古典の臨書学習により、草書の特徴を踏まえた用筆法、運筆法を学ぶ。	
			漢字仮名交じりの書	8	・自己の意図や狙いを達成するために、漢字や仮名の古典を活かした表現を工夫する。 ・自らの思いや感動を表現する語句を選び創作する。 ・用具、用材の種類や扱い方によって、表現が変化することを理解する。	
2	8 9 10 11	篆刻	篆刻	6	・姓名印を作成し、創作作品に押印する。	学習プリント
	12	生活に広げる	実用書	4	・年賀状や手紙文の書き方を学ぶ。	年賀状
3	1 2 3		隷書の臨書と鑑賞	6	・隷書に親しみ、古典の臨書学習により、隷書の特徴を踏まえた用筆法、運筆法を学ぶ。	作品
			篆書の臨書と鑑賞	6	・篆書に親しみ、古典の臨書学習により、篆書の特徴を踏まえた用筆法、運筆法を学ぶ。	
		仮名の書の学習	仮名の美の展開	8	・仮名の書の変遷について学び、日本の伝統美を理解し表現する。	
備考：			合計	70		

教　科　名	外国語	科目名	英語コミュニケーションⅠ	単位数	３　単位
対 象 学 年	１年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	ＣⅠ702
科目の目標	日常的･社会的な話題について，多くの支援を活用すれば， 必要な情報を聞き取り，話し手の意図を把握したり，概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。				
学習内容の概要	必要な情報を読み取り，書き手の意図を把握したり，概要や要点を目的に応じて捉えたりする。 基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり，論理性に注意して話して伝え合ったりする。 基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して話して伝える。 基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝える。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
評価方法	・小テスト ・定期考査（中間考査・期末考査）	・小テスト（音読テスト、writingテストなど） ・定期考査（中間考査、期末考査）	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況
教科書、教材など	「Power On English Communication I」（ＣⅠ702），「ユメタン⓪①」（アルク） 「Power On English Communication Ⅰ WORKBOOK」（東京書籍）「Fact Bookワークブック」（桐原書店）		
業　形　態	一斉授業		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	**Lesson 1** Japan's New Tourism	ユメタン音読、単語練習 ・小テスト ・デジタル教科書を使用して本文内容理解 ・ワークブック ・文法事項の確認、練習 ・本文音読 ・Fact Book演習		・過去と現在の日本の観光の状況について，動詞の現在形・過去形，進行形，助動詞＋動詞の原形などの理解 ・自分の住んでいる地域の魅力について，基本的な語句や文を用いて，情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝える技能を身につける ・受け身，現在完了形，現在完了進行形を用いた文の形・意味・用法を理解 ・動名詞，不定詞，S＋V＋O［that 節］を用いた文の形・意味・用法を理解 ・後置修飾の現在分詞，後置修飾 ・過去分詞，比較級・最上級を用いた文の形・意味・用法を理解 文と文，段落と段落の繋がりを示す語句を理解している。 ・登場人物の心情を想像しながら，必要な情報や書き手の意図，概要や要点を捉えたり，自分の感想を論理性に注意して書いて伝える技能を身につける。 ・関係代名詞（主格），関係代名詞（目的格），S＋seem＋to ・不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解。 It＋be 動詞＋形容詞＋that 節，S＋V［be 動詞以外＋C］，S＋V＋O＋C［形容詞］を用いた文の形・意味・用法を理解 関係副詞 where，関係副詞 when，関係代名詞 what を用いた文の形・意味・用法を理解	
	5	**Lesson 2** Light from Creatures				
		Lesson 3				
	6	Routes to the Top				
		Lesson 4				
	7	Left to Right, Right?				
		Summer Reading				
2	9	Mama's Bank Account				
	10	**Lesson 5** Banana Paper				
	11	**Lesson 6** Patterns in Human Behavior				
	12	**Lesson 7**				
3	1	No Plastic or No Future				
	2					
	3					
備考：			合計			

教　科　名	英語	科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	４単位
対 象 学 年	１年総合	履修形	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第１款の（１）及び（２）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その課程を通して、第１款の（３）に示す資質・能力を育成する。				
学習内容の概要	〔知識及び技能〕（１）英語の特徴やきまりに関する事項　ア音声　イ句読法　ウ語、連語及び慣用表現　エ文構造及び文法事項　〔思考力、判断力、表現力等〕（２）情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項（３）言語活動及び言語の働きに関する事項①言語活動に関する事項②言語の働きに関する事項				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知識・技能	思考力・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる 実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適 切に活用できる技能を身に付けるようにする	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題 や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切 に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケー ションを図ろうとする態度を養う。
評価方法	・小テスト ・定期考査（中間考査・期末考査）	・小テスト（音読テスト、writingテストなど） ・定期考査（中間考査、期末考査）	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況
教科書、教材など	VISTA English Communication Ⅰ（三省堂）、VISTA English Communication Ⅰwork book（三省堂） ユメタン(0)アルク		
授 業 形 態	一斉、グループワーク		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
	4 5	Get Ready! ののちゃんの英文法	ユメタン音読、単語練習 ・本文内容理解 ・ワークシート ・文法事項の確認、練習 ・本文音読	3 10	・アルファベット、単語の書き方、辞書の引き方、教室での英語の使用を理解する。 ・主語、be動詞、一般動詞、目的語、形容詞、副詞、前置詞、冠詞について理解し、言語活動へつなげる。	提出課題 小テスト 定期考査の成績を総合して評価
	6	Lesson1 Colors of Spring 中間考査 Lesson2 Dick Bruna		10 13	・be 動詞、一般動詞の現在形に関する事項の確認。 ・春について、理解を深める。 ・be 動詞、一般動詞,現在形に関する事項の確認。 ・ディック・ブルーナさんについて、理解して考えを深める。	
	7	期末考査			・進行形に関する事項の確認。 ・過去の行動について、意見を交換する。 ・	
	8 9	Lesson3 Interesting Sports		13	・助動詞、動名詞に関する事項を理解する。 ・趣味について基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に情報や考えを発表する。	
	１０	Lesson4 Pictogram Lesson5 We Are Part of Nature 中間考査		13 13	・不定詞に関する事項を理解する。 ・ポスターの提案理由について、基本的な語句や文を用いて、基本的な語句や文を用いて与えられたフォーマットを参考に情報や考えを書く。	
	１１	Lesson6 Machu Picchu Lesson7 Artifichial Intelligence		13 13	・現在完了形に関する事項を理解する。 ・マチュピチュについて理解する。 ・旅行について基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に情報や考えを発表する。	
	１２	期末考査 Lesson8 Is There a Santa Claus?		13	・受け身に関する事項を理解する。 ・AI について理解する。 ・AI 製品について、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に情報や考えを書く。	
	1	Lesson9 Kid's Guernica		13	・関係代名詞に関する事項を理解する。 ・サンタクロースについて理解する。 ・ポスターについて、基本的な語句や文を用いて与えられたフォーマットを参考に情報や考えを書く。	
	2	Lesson10 Ethical Fasion 学年末考査		13	・分詞、関係代名詞に関する事項を理解する。 ・場所の説明、メールの質問への返事についを用いて、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に情報を書く。	
	3				・比較の表現に関する事項を理解する。 ・エシカルファッションについて理解する。	
備考：			合計	140		

教　科　名	英語	科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	３単位
対 象 学 年	１調理	履修形	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第１款の（１）及び（２）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その課程を通して、第１款の（３）に示す資質・能力を育成する。				
学習内容の概要	〔知識及び技能〕（１）英語の特徴やきまりに関する事項　ア音声　イ句読法　ウ語、連語及び慣用表現　エ文構造及び文法事項　〔思考力、判断力、表現力等〕（２）情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項（３）言語活動及び言語の働きに関する事項①言語活動に関する事項②言語の働きに関する事項				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知識・技能	思考力・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる 実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適 切に活用できる技能を身に付けるようにする	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題 や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切 に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケー ションを図ろうとする態度を養う。	
評価方法	・小テスト ・定期考査（中間考査・期末考査）	・小テスト（音読テスト、writingテストなど） ・定期考査（中間考査、期末考査）	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	
教科書、教材など	VISTA English Communication Ⅰ（三省堂）、VISTA English Communication Ⅰwork book（三省堂） ユメタン(0)アルク			
授 業 形 態	一斉、グループワーク			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
	4 5 6 7 8 9 １０ １１ １２ 1 2 3	Get Ready! ののちゃんの英文法 Lesson1 Colors of Spring 中間考査 Lesson2 Dick Bruna 期末考査 Lesson3 Interesting Sports Lesson4 Pictogram Lesson5 We Are Part of Nature 中間考査 Lesson6 Machu Picchu Lesson7 Artifichial Intelligence 期末考査 Lesson8 Is There a Santa Claus? Lesson9 Kid's Guernica Lesson10 Ethical Fasion 学年末考査	ユメタン音読、単語練習 ・本文内容理解 ・ワークシート ・文法事項の確認、練習 ・本文音読	3 5 9 9 9 10 10 10 10 10 10	・アルファベット、単語の書き方、辞書の引き方、教室での英語の使用を理解する。 ・主語、be動詞、一般動詞、目的語、形容詞、副詞、前置詞、冠詞について理解し、言語活動へつなげる。 ・be 動詞、一般動詞の現在形に関する事項の確認。 ・春について、理解を深める。 ・be 動詞、一般動詞,現在形に関する事項の確認。 ・ディック・ブルーナさんについて、理解して考えを深める。 ・進行形に関する事項の確認。 ・過去の行動について、意見を交換する。 ・ ・助動詞、動名詞に関する事項を理解する。 ・趣味について基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に情報や考えを発表する。 ・不定詞に関する事項を理解する。 ・ポスターの提案理由について、基本的な語句や文を用いて、基本的な語句や文を用いて与えられたフォーマットを参考に情報や考えを書く。 ・現在完了形に関する事項を理解する。 ・マチュピチュについて理解する。 ・旅行について基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に情報や考えを発表する。 ・受け身に関する事項を理解する。 ・AI について理解する。 ・AI 製品について、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に情報や考えを書く。 ・関係代名詞に関する事項を理解する。 ・サンタクロースについて理解する。 ・ポスターについて、基本的な語句や文を用いて与えられたフォーマットを参考に情報や考えを書く。 ・分詞、関係代名詞に関する事項を理解する。 ・場所の説明、メールの質問への返事についを用いて、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に情報を書く。 ・比較の表現に関する事項を理解する。 ・エシカルファッションについて理解する。	提出課題 小テスト 定期考査の成績を総合して評価
備考：			合計	105		

教　科　名	外国語	科目名	論理表現Ⅰ	単位数	２　単位
対 象 学 年	１年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	論Ⅰ709
科目の目標	「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して，コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに，論理の構成や展開を考察することで，情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。				
学習内容の概要	コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を 踏まえ，話したり書いたりする言語活動を 中心に，情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図るように指導する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○外国語の学習を通じて，言語の働きや役割などを理解し，外国語の音声，語彙・表現，文法の知識を身に付けている。 ○外国語の音声，語彙・表現，文法を，４技能（聞くこと，読むこと，話すこと，書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。	○場面・目的・状況等に応じて，幅広い話題について，情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。 ○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して，場面・目的・状況等に応じて，幅広い話題について外国語を話したり書いたりして，情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。	○外国語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解している。 ○外国語の学習を通じて，言語やその背景にある文化を尊重し，自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○他者を尊重し，聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら，外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して，自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査（中間考査・期末考査）	・小テスト（音読テスト、writingテストなど）・定期考査（中間考査、期末考査）	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況
教科書、教材など	Vision Quest English Logic and Expression Ⅰ Standard(啓林館)　Next　Stage　4th（桐原書店）		
業　形　態	一斉授業/ペアワーク、グループワーク		

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	Lesson1 I want to introduce my new friend.	・Next Stage 小テスト ・ワークブック ・文法事項の確認、練習 ・本文音読 ・Fact Book演習	4	・ 紹介：初対面で行われる自然な会話や学校の習慣を紹介する表現を学ぶ。 ・文法 ：さまざまな疑問文や命令文，感嘆文を適切に作り，それに応答することができる。また，単文，重文，複文の構成を理解し，まとまりのある文で表現することができる。	
	5	Lesson2 Do you want to join our show?		4		
	6	Lesson3 I'm planning a day trip this weekend.		4	・ 学校生活:学校の文化祭に参加する留学生との会話を通して，学校生活で行われる生徒同士のやり取りの表現を学ぶ。 ・5 つの文型と There is の構文を理解し，文を組み立ていることができる。また，注意すべき自動詞と他動詞の使い分けができる。 ・旅行の計画や予定を尋ねたり伝えたりする表現を学ぶ。	
	7			4		
2	9	Lesson4 Have you ever tried it before?		4	・基本時制の構造と概念を理解し，伝えたいことを適切な時制を用いて，書いたり話したりすることができる。 ・趣味や関心のあることについて，その経験を尋ねたり，伝え合ったりする表現を学ぶ。	
	10			4	・現在・過去・未来完了形の概念を理解し，それぞれの用法を区別することができる。また，共に使える語句を使って，文を作ったり，表現したりすることができる。	
	11	Lesson5 What do you want to do after school?		4	・将来や進路について，自分の意見や考えを伝えたり，相手に尋ねたりする表現を学ぶ。 ・助動詞のそれぞれの意味と用法を理解し，適切に使い分けて表現することができる。	
	12	Lesson6				
3	1	Did you hear about the new shop?			・日常生活で発話される生徒同士の自然な会話の流れを学び，自分の感情や物事を詳細に表現することができる。 ・受動態を用いた様々な文の構造や意味を理解し，必要に応じて使い分け，適切に伝えることができる。	
	2	Lesson7				
	3	I'm happy to have you with us.				
備考：			合計			

教　科　名	情報	科目名	情報Ⅰ	単位数	2　単位
対 象 学 年	１年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して，　問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し，情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。				
学習内容の概要	ネットワークに関する基礎知識、パソコンの基本（２単位：文字の入力、タイピングの基本） ソフトを使いこなす（２単位：調べ学習の仕方、発表の時機器を使って実施） 表計算を学ぶ。パワーポイントを学ぶ				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知能・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要なパソコンの知識や技能を身に付けるようにする. パソコン操作の理解 ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｿﾌﾄの使いこなし	実社会に必要なパソコンの知識や技能を身に付けるようにする. パソコン操作の理解 ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｿﾌﾄの使いこなし	実社会に必要なパソコンの知識や技能を身に付けるようにする. パソコン操作の理解 ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｿﾌﾄの使いこなし
評価方法	・授業への取り組み方(学習活動への参加姿勢や態度、ノート記述確認) ・出席状況 ・ソフトの使いこなし・定期考査	・授業への取り組み方(学習活動への参加姿勢や態度、ノート記述確認) ・出席状況 ・ソフトの使いこなし・定期考査	・授業への取り組み方(学習活動における発言内容や態度) ・課題作成

教科書、教材など	情報Ⅰ（数研）
授　業　形　態	一斉授業・グループ授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価
1	4	コンピュータの基本的な構成	パソコンの基礎知識を身につける。	4	教科書、DVD を使用し理解する。	
		情報社会の問題解決		10	・問題を発見・解決するための一連の流れを理解する。 ・問題の発見・解決に情報技術が活用できることを理解する。 ・問題解決の各場面で活用できるよう理解する。	
	5 上旬		ワープロ（Word）の基礎知識		・画像、図、絵の貼り付けをはじめ、多種多用な機能を習得する。	
	中旬 6	情報モラル	情報モラルについて 個人情報はどこまでインターネット上に公開できるか 傷つかない傷つけないためには		・タイピング・文書作成の基本を確認し、3級取得に向け、表の作成をはじめ、資格試験3級に必要な機能を習得させる。	
	7				・情報社会で生活していくための情報モラルを理解する。	
	9 10	情報通信ネットワークのしくみ		20	・情報社会の安全を守るための，法規や制度および個人の責任について学習する。	
2		インターネット・メール・ドメイン等の理解	・WWWについて理解する。 ・電子メールについて学習する。		・個人情報とはどのようなものか理解する。 ・SNS を通して個人情報が流出・特定される仕組みを学習する。 ・SNS 等の不適切な使い方による問題を理解する。	
	11 12	表計算ソフトの操作				
	1		表計算（Excel）の基本。	22	・表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。	
	2				・表計算ソフトウェアでの数式の利用を学習する。	
	3				・表計算ソフトウェアでの関数の利用を学習する。	
3						
備考：			合計			

教　科　名	家庭科	科	家庭基礎	単位数	２単位
対 象 学 年	第　１　学年	履修	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てる。				
学習内容の概要	（１）人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。 （２）家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。				
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度）・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度）・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度）・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）		
教科書、教材など	東京書籍　「家庭基礎」				
授 業 形 態	一斉授業				

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）
1	4	家庭科の学び方	家庭科の学び方	1	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。
		生涯を見通す	人生を展望する 目標を持って生きる	7	・各ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞの特徴と課題を理解する。
	5	人生をつくる	人生をつくる 家族・家庭を見つめる これからの家庭生活と社会		・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように，さまざまな生き方について理解する。
	6	子どもと共に育つ	命を育む 子どもの育つ力を知る 子どもと関わる これからの保育環境	8	・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために，子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために，子どもの生活習慣や衣食住について理解する。
	7	超高齢社会を共に生きる	超高齢・大衆長寿社会の到来 高齢者の心身の特徴 これからの超高齢社会	10	・超高齢社会の背景を理解し、加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。
		期末考査	私たちの生活と福祉		
	8				
2		共に生き，共に支える	社会保障の考え方	4	・社会保障制度の理念と内容を学ぶ。
	9	衣生活をつくる	被服の役割を考える 被服を入手する 被服を管理する	10	・被服の機能を理解し、健康で快適な着装について考える。 ・購入、再利用、破棄などを考慮に入れた衣服の必要性を理解する。
	10	住生活をつくる	住生活の変遷と住居の機能 安全で快適な住生活の計画	6	・生涯を見通した住生活について考え，将来に向けて自立するために，毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・室内外の環境に着目し，安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。
		経済生活を営む		6	
	11		情報の収集・比較と意思決定		・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。
		期末考査	購入・支払いのルールと方法 消費者の権利と責任		・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう，契約の重要性について理解する。
	12		障害の経済生活を見直す これからの経済生活		・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため，家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。
	1			6	
		これからの生活を創造する	生活をデザインする		・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しよする。
3				12	・人生の目標を達成し，自分らしい生活が実現できるよう，各ライフステージの課題や生活資源，リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。
	2	食生活をつくる	食生活の課題について考える 食事と栄養・食品		・自分自身の食生活を振り返り、問題点を考える。
		学年末考査	食生活の安全と衛生		・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。
	3		調理の基礎 これからの食生活		・基本的な調理技術を学び，日常食を作れるようになる ・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。
備考：			合計	70	

教　科　名	家庭科	科目名	食品衛生	単位数	２単位
対 象 学 年	第１学年調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	食物は人に対して食中毒等の健康被害をもたらし、場合いによっては生命を左右することがあるためこれを認識し理解する				
学習内容の概要	食中毒の原因物質となる病原微生物や寄生虫、化学物質などの性状や毒性を学び、その対処方法や予防方法などと調理師自身の健康管理の重要性を学習し、HACCPの精神を導入するなど「清潔で衛生的な食品の取り扱い」を学び、今日盛んに提唱されている「食の安全・安心」を提唱できる確かな基礎知識が身につくように学習する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
	食品に由来する微生物の種類、増殖条件や健康危害を理解してその知識を積極的に活用しようとする。	食中毒の基礎知識を理解し、科学的な知識や手法が食品衛生対策上、理解した上で判断力がある。 事象を考察し，表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け，よりよく問題を解決する。	食品衛生における基本的な概念、微生物の知識を得、調理師として食中毒予防に努める基礎知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査

教科書、教材など	食品衛生学（全国調理師養成施設協会）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	食の安全と衛生 食品と微生物	食の安全を守る 安全を脅かす要因 安全確保の仕組み		時代を超えて共通する脅威は食中毒であることで細菌やウイルスなどの微生物が占めている事を学び理解させる	観察
	5	中間考査	食品衛生とは	30	ＷＨＯの定義による食の安全．食品衛生の概念を学び理解させる	考査
	6		食品中の微生物．腐敗			
	7	期末考査			微生物は細菌．リケッチア．酵母．カビ．ウイルス．原虫などを学び理解させる	
2	9	中間考査			微生物が腐敗にどのように関わるか学び理解させる	
	１０	食品と化学物質 器具．容器包装の衛生	食品添加物．重金属 放射線物質 器具．容器包装の概要	20	添加物の定義やヒ素．重金属．有毒元素や放射性物質がどのように食品に関わり影響するかを学び理解させる	観察 考査
3	１１	期末考査				
	１２					
	1	飲食による健康危害	健康危害の種類 食中毒の概要	20	飲食により健康が脅かされる原因を学び理解させる	観察
	2					考査
	3	学年末考査				
備考：			合計	70		

教　科　名	家庭科	科目名	食品	単位数	２単位
対 象 学 年	第１学年調理	履修形態	一斉	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	「調理師」を名乗る人には、それだけ重要な社会的使命が与えられていることを理解する。				
学習内容の概要	食品の特性を知り、美味しくて安全な食事を提供し、健康の維持増進をはかる。食の安全を確保する。調理技術や調理様式を受け継ぎ、さらに新たな調理法を創造し、文化継承の役割を担う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
	人々の健康を守る社会の仕組みを理解してその知識を積極的に活用しようとする	人々の健康にとって問題になっていること又、家族を含めた健康管理を把握、認識し、理解する。事象を考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する。	衛生統計を理解し、感染症における基本的な概念、環境保健全般の知識を得、公衆衛生と身体との関係を理解し、知識を身につけている。
評価方法	授業態度、発表回数、ノート等の提出状況	文章問題の小テスト、授業中の発表内容	中間考査は考査素点、期末考査は考査点を含む総合評価

教科書、教材など	２　食品と栄養の特性（社会法人全国調理師養成施設協会）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	食品の特徴と性質	植物性食品とその加工品	20	穀類	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5	中間考査			いもおよびでんぷん類 砂糖および甘味類	
	6				豆類、種実類、野菜類	
	7	期末考査			果実類、	
	8					
	9			30	きのこ類、藻類	
			動物性食品とその加工品		魚介類、食肉類	
	10	中間考査			卵類、乳類	
	11		その他の食品		油脂類、菓子類、嗜好飲料類、調理料および香辛料類 調理加工食品類	
	12	期末考査			ゲル状食品、特別用途食品、保健機能食品	
	1		食品の加工と貯蔵	20	食品の加工、食品の貯蔵	
	2		食品の生産と流通		食品の国内生産と輸入 食品の流通	
	3	学年末考査				
備考：			合計	70		

教　科　名	家庭科	科目名	調理(実習)	単位数	2単位
対 象 学 年	第１学年調理	履修形態	必須	科目ｺｰﾄﾞ	
科 目 の 目 標	調理師を目指すにあたり必要な実践的な技術、知識の基礎を学ぶ。包丁の研ぎ方、握り方にはじまり、だしの取り方など基礎をしっかりと学ぶ				
学習内容の概要	正しい服装、みだしなみをして、基礎的な調理技術や衛生観念について学び、調理の楽しさを実感できるよう包丁・食材・器具に触れる時間を作る。基礎的な事の反復実習を行い基礎技術の習得をする。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
	実習や授業に向かう態度や動きが良好で、食材や料理に対する関心をもっている。	試食や味の違いについて研究している。実習中に味の濃い薄いについて調整している。進行状況を把握し、時間をみて動けている。 お客様に提供する事を常に意識し、包丁、まな板の扱いが丁寧で最終的に盛りつけが美しく盛れている	行程や切り方をはじめ、包丁の使い方、扱い方が正しく使えているか。 切り方の呼び方などを把握している。
評価方法	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。試食の際の盛りつけや作業中の片付け具合等の観察で評価する。	A・B・C・D・E 5・4・3・2・1 技術テストにより評価する。

教科書、教材など	新調理師養成教育全書　必修編　調理実習、調理実習レシピなど
授 業 形 態	一斉、班別学習

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	① 調理実習を行うにあたって	調理実習の心得 衛生的な習慣	2 2	・調理師として正しい服装、姿勢を理解する。 ・手洗い、身だしなみをきちんとする。	授業中の行動、取り組み方の観察や技術考査などにより評価する。
	5	② 器具包丁などの名称	包丁の種類 器具の名称	2	・和、洋の包丁の名前、部位を理解する。 ・鍋などの器具の名前や調理器具の名称を理解する。	
		③ 包丁の研ぎ方	砥石を使って研ぐ	3	・包丁の研ぎ方、砥石の使い方、管理の仕方を理解する。	
		④ だしの取り方	一番だしを引く	5		
	6	⑤ 包丁の使い方	野菜の刻み方	3	・料理の基礎となる出汁の取り方を理解する。	
		⑥ だしを使った料理	だし巻き卵 野菜のポタージュ	2	・桂剥きなどを練習し、手首の安定をめざし包丁の扱いになれる	
	7	⑦ スイーツの基礎 技術テスト	クレープ生地 フルーツのカット	1	・出汁やフォン、ブイヨンを使い、火加減や食材の性質にあわせて調理し特性を理解する。	
		⑧ 大掃除	鍋磨き	1	・製菓の器具の使い方、基本の切り方について理解する。	
2	8	⑨ 魚のおろしかた 魚を使った料理	魚の処理の基本 ･水洗い ･三枚おろし ･大名おろし	10	・器具の手入れを学び、調理師としての自覚、衛生管理を理解する。	
	9				・魚の下処理を理解し、調理に見合った切り方を反復練習する。	
	10	⑩ 中華飾り切りなどゲストティチャーを招いて	中華の食材の切り方 調味料や香辛料について	4	刺身、焼き魚等 ・講師を招いて中華料理の技法、食材、香辛料について専門的に学ぶ。	
	11					
		⑪ 揚げ物	油の温度調節	7	・油の温度の違いによる加熱の具合や食感などの変化について理解する。	
	12					
		⑫ 蒸し物	蒸し器の使い方 適正な大きさ切る	7	・蒸し器の使い方にあわせた食材の下処理の仕方や火加減について理解する。	
		⑬ スイーツ 技術テスト	焼き菓子	7	・オーブンの使い方、製菓の器具の使い方を理解しながら卵や粉製品に特性を理解する。	
		⑭ 大掃除	鍋磨き	1	・器具の手入れを学び、調理師としての自覚、衛生管理を理解する。	
3	1	⑮ 包丁の技術向上	飾り切り 野菜の下処理	4	・料理のあしらいやガル二作りを季節を意識しながら包丁を使って仕上げる。	
		⑯ だしを使った料理	煮物 ソース作り	7	・季節を意識しながら煮炊きする火加減、味加減を学び、食材に合わせたソースの作り方を理解する。	
	2	⑰ 復習 技術テスト	一年間の復習	4	・一年間を通して学んだ事を復習する。	
		⑱ 大掃除	鍋磨き	1	・器具の手入れを学び、調理師としての自覚、衛生管理を理解する。	
	3					
備考：			合計	73		

教　科　名	家庭科	科目名	調理(理論)	単位数	1単位
対 象 学 年	第１学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	調理師を目指すため、調理師の社会的使命として社会的に重い職業であることを理解させ理論を学習する				
学習内容の概要	食文化継承の役割を担う。技や腕だけでなくおいしさの理由を理論として学び素材に用いる食品の知識を得、栄養と体との関係を理解させ衛生的で安全な調理ポイントを学習し、調理に携わる職人として多岐にわたる見識と教養を身に付けさせる				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
	調理に関心を持ち、多岐にわたる見識と教養の充実向上を目指して、意欲的に取り組んでいる。	調理について思考を深め、基礎・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し、その結果を的確に表現する。実健実習を合理的に計画し、創意工夫する能力を身に着けている。	調理に関する基礎・基本的な知識を身につけ、調理師の社会的使命を理解している。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察 課題の提出など.	授業中の話し合い、発表、定期考査、小テストなど	定期考査、小テストなどによる評価

教科書、教材など	調理理論と食文化概論（全国調理師養成施設協会）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	調理とおいしさ	調理とは. おいしさの構成	7	調理の基礎的な理論として調理の目的を理解する	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5	中間考査				
	6	調理の基本操作	非加熱調理操作 計量、洗浄、浸漬	10	非加熱操作､加熱操作などの調理操作の方法と特徴を理解し応用することができる。	
	7	期末考査	切砕、混合、磨砕、成形 冷却、冷凍、解凍		非加熱操作の特徴を理解する	
	8		加熱調理操作		加熱操作	
2	9		湿式加熱、乾式加熱 誘導加熱、誘電加熱		湿式加熱、乾式加熱の違いや特徴について理解する 誘電加熱、誘導加熱の違いを理解する	
	10	中間考査	植物性食品	10	食品の性質と調理による変化をとらえ､調理の要点を理解する	
		食品の調理科学	穀類		穀類の特徴について理解する	
	11	期末考査	いもおよびでんぷん類	8	いもおよびでんぷん類の特徴について理解する	
	12					
	1		砂糖		砂糖の特徴について理解する	
3	2	学年末考査	豆類		豆類の特徴について理解する	
	3					
備考：			合計	35		